土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

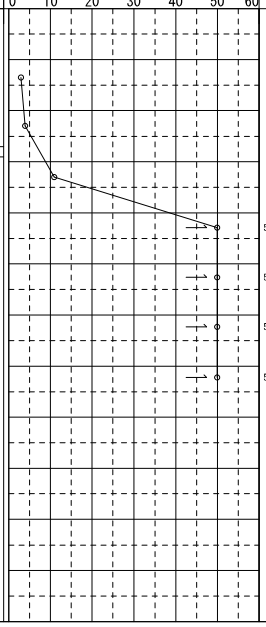
調査名	主要地方道　矢野安浦線　道路改良事業に伴う測量設計業務委託(熊野バイパス2工区)
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	道路　橋梁・高架

ボーリング名	R4-Bor.No.1	調査位置	広島県安芸郡熊野町			北緯	34° 19' 53.1180"
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	令和4年11月 7日～ 令和4年11月 9日			東経	132° 34' 47.1310"
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	TP 212.57m	角度	180° 上 90 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	26° 水平 0° 鉛直 90°
総削孔長	7.00m	使用機種	試錐機	東邦D-0	エンジン	ヤンマー NFD10-EK	ポンプ 東邦BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
1				礫混じり砂		褐	rd1		中～粗砂主体。φ2～20mmの礫を10～20%含む。細粒分を少量混入する。GL-0.9～1.0m付近は細粒分が多い。	
2	210.67	1.90		シルト質砂		褐灰	rd1		細～中砂主体。シルト部を20～30%含む。少量の礫を混入する。	11/9 2.70
3	210.07	2.50		礫混じり砂		灰褐	rd3		粗砂主体。φ2～20mmの礫を10～20%混入する。	
4	208.97	3.60		花崗岩		淡緑灰～淡黄褐～淡褐	rd5		粗粒花崗岩。組織は明瞭であるが，風化著しく指圧で容易に砂状になる。GL-3.6～5.0m間は，変質により脱色し，非常に脆い。GL-5.0～7.0m間は，亀裂沿いに褐色化が著しい。全体としてDH～DM級。軟岩Ⅰ。	
5										
6										
7	205.57	7.00								
8										
9										
10										
11										
12										

標準貫入試験

深度―N値図



N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
3	1.15	1 / 150	1	1 / 150	3 / 400		
	1.55						
4	2.15	1	1	2	4 / 300		
	2.45						
11	3.15	3	4	4	11 / 300		
	3.45						
50以上	4.15	10	15	25 / 80	50 / 280	280	
	4.43						
50以上	5.15	16	24	10 / 30	50 / 230	230	
	5.38						
50以上	6.15	24	26 / 70		50 / 170	170	
	6.32						
50以上	7.15	32	18 / 40		50 / 140	140	
	7.29						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
1.15	P1-1	⊖	比重 含水 粒度	11/7
1.55				
2.15	P1-2	⊖	比重 含水 粒度	
2.45				
3.15	P1-3	⊖	比重 含水 粒度	
3.45				11/8